

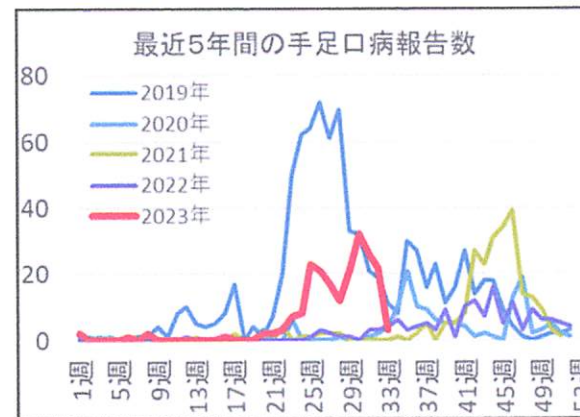
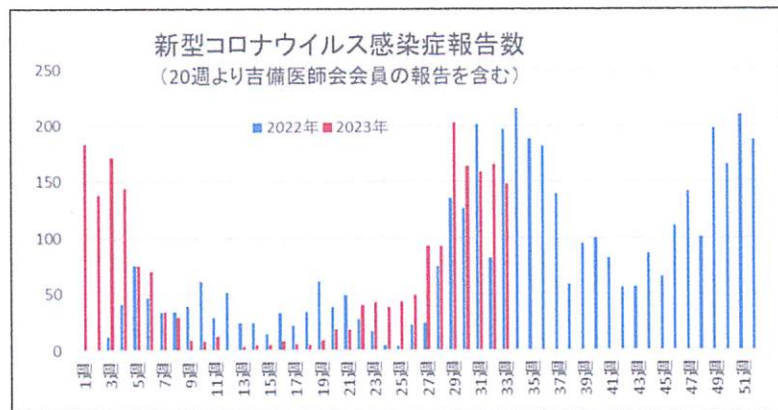
週間感染症情報

2023年31-33週 2023年7月31日より2023年8月20日まで

31週 32週 33週

麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)	1		1
ムンプス(おたふくかぜ)			
百日咳			
溶連菌感染症	8	3	3
手足口病	26	22	3
ヘルパンギーナ	6	3	2
伝染性紅斑			
感染性胃腸炎	11	15	11
ロタウイルス(再掲)			
便アデノウイルス(再掲)			
突発性発疹	1	2	2
伝染性膿痂疹(とびひ)	4	4	8
ヘルペス性口内炎	1		
アデノウイルス感染症		2	2
RSウイルス感染症	10	12	2
マイコプラズマ感染症			
ヒトメタニューモウイルス	1		
インフルエンザ	4	0	9
インフルエンザ A	4	0	9
インフルエンザ B			
新型コロナウイルス感染症	159	165	148

お盆休みを挟んでの31~33週の3週間分の報告です。左下の新型コロナウイルス感染症のグラフは、20週より吉備医師会の先生方の報告を含みます。多くは成人例でおよそ報告数の半数です。当番医の先生方の報告が多かったです。150例前後の報告が続いています。若い働き盛りの感染が多く、高校などクラスターが発生しました。5類になったということもあり、体調不良でも出勤・登校して感染を拡大する例もありました。夏休みのため、小児の報告は少なかったのですが、小児では一家全員感染した例が多かったです。小児は軽症だと言われてはいますが、けいれんを起こしたり、脱水になる症例もあります。総社市では、高校生と異なり中学生のマスクの着用率は高く、クラスターの発生はほとんどありませんでした。インフルエンザAは夏休みに入って減少していましたが、31週に介護施設での流行がありました。33週より、再びインフルエンザAの報告が増えています。今シーズン2回患例もあります。南半球のオーストラリアでは、Aの流行後にBの流行がありました。感染対策が緩和されるにつれて、通常の感染症流行のパターンにもどってきているようです。10月からはインフルエンザワクチン接種が開始されます。高齢者、リスクの高い方、乳幼児の方は接種を検討して下さい。手足口病、ヘルパンギーナなどの夏のエンテロウイルス感染症は、流行の山は越えたようです。これからの季節は、喘息発作のきっかけとなるライノウイルス(いわゆる鼻かぜのウイルス)が流行します。体調不良の場合は休み、手洗い・換気、周囲の感染状況によるマスクの着用は引き続きお願いします。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)